

# Statistical Room



## がんばれ就職一年生

春になり、卒業、入学、就職と節目を迎えた方も多かったことと思います。長く続く不況も、持ち直しの兆しが見えると言われていますが、高校生の就職についてはどうなっていたでしょうか。

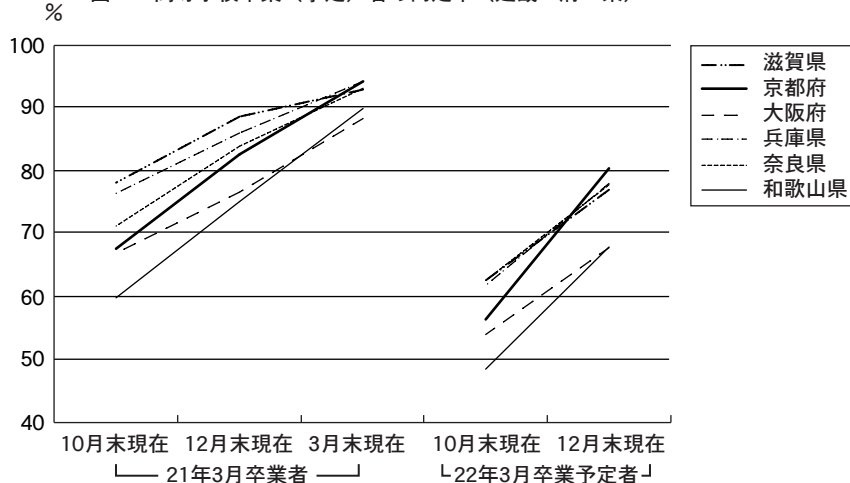
文部科学省では、毎年高校卒業予定者の就職内定状況を、10月末、12月末、3月末時点で全数調査し、集計をしています。表1は、平成22年3月卒業予定者の12月末時点での就職希望率の状況です。少子化の影響を受けて大学に入学しやすくなったためか、就職希望率は以前に比べ若干低くなっています。なかでも京都府は就職希望率が低く、10%以下となっており、東京都やその周辺についても同じです。身近に大学が多くあるところは、進学希望率が高く、就職希望率は低くなるのでしょうか。

表1 高校卒業予定者の都道府県別就職希望率(21年12月末現在)  
(単位：%)

	就職希望率の低い都道府県□		就職希望率の高い都道府県□	
	都道府県名	就職希望率	都道府県名	就職希望率
1位	東京都	6.21	青森県	31.30
2位	神奈川県	8.70	佐賀県	30.79
3位	京都府	8.73	長崎県	29.20
4位	奈良県	10.41	宮崎県	27.93
5位	千葉県	12.51	秋田県	27.65

□では、就職を希望した人の内定状況はどうなっているのでしょうか。図2は、近畿2府4県の平成21年3月卒業者と平成22年3月卒業予定者の内定状況を表したものです。10月、12月、3月と経過するに従って内定率は上がっていますが、今年は前年より内定率が低くなっていたことがわかります。大阪府や和歌山県は7割以下の内定率となっており、卒業の3月末までに就職先を見つけることがとても大変な状況になっていました。京都府は昨年10月末時点では57%でしたが、12月末には近畿のなかでもトップで8割を超える内定率となっています。3月末には就職希望者全員の内定が決まっています。

図2 高等学校卒業（予定）者の内定率（近畿2府4県）□



員の内定が決まっています。

高校を卒業する人にとって、進学するか就職するか、進路はとても大きな人生の節目になります。景気の影響によって進路を変更しなければならないことのないようにしていきたいものです。